

令和3年度 第2回山城地方 学力向上対策会議 を開催しました！



令和3年度第2回山城地方学力向上対策会議を開催し、「山城地方教育実践フォーラム」の方向性についての協議や「家庭学習を充実させる取組」についての交流を行いました。

1 日 時 令和3年10月11日(月)午後3時から同4時50分まで

2 場 所 京都府田辺総合庁舎 講堂

3 出席者 山城地方学力向上対策会議員 19名

4 概 要

「山城地方教育実践フォーラム」の方向性について協議等を行いました

◇相当な準備を進めてきた中で、大変残念ではあるが、コロナ禍において、当初計画していた学校での集合研修を行うことは難しいため、公開授業及び全体会はオンライン形式で実施する。

◇ブレイクアウト機能を使い、交流協議を実施する。

◇オンライン形式は、技術的にもチャレンジであるが、今後の事業の実施方法を見据えて発信する。

「山城地方学力向上を目指す教育実践交流会」の運営について協議等を行いました

◇「山城地方の優れた実践に学び、管内の授業力向上を目指す」ことを目的に、令和4年2月8日(火)京都府総合教育センターにおいて集合形式で開催する。

◇感染症拡大防止対策を万全に講じた上で行う。

◇分散会Ⅰでは、各市町(広域連合)教育委員会より推薦され「実践事例集 第30集」に実践事例を掲載する10校が実践発表を行う。

◇分散会Ⅱでは、校種別に管内小・中学校の授業VTRをもとに「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善について交流協議を行う。

◇同日の午前に「第5回山城地方学力向上対策会議」を行う。



令和3年度全国学力・学習状況調査について、山城教育局管内小・中学校の結果(国語、算数・数学の各平均正答率の全国比・府比、過去5回の全国比の推移)を共有しました

- ◇過去5回の全国比をみると、国語については、年度によって多少の変化はあるが、小・中ともに概ね同じ値で推移している。算数・数学については、小・中ともに値が下がっている(全国平均との差が拡大している)傾向である。
- ◇言語能力や情報活用能力を問う問題が増えている。問題に込められたメッセージを読み解き、授業改善に活かしていくことが大切である。
- ◇非認知能力との相関関係も重要である。京都府は「認知能力と非認知能力を一体的にはぐくむ」ことを提言しており、その視点で結果を分析したい。
- ◇局別データは、京都府のホームページにも掲載している。

「はぐくみたい力」見える化シートについて協議等を行いました

- ◇第2期京都府教育振興プランの策定、はぐくみたい力の更新にともない、「はぐくみたい力」見える化シートを令和3年度版に更新して提供する。
- ◇これまでの CD-R での提供ではなく、京都府のファイル交換サーバーを活用して各学校に提供する。

家庭学習を充実させる取組について交流しました

自主学習について

- ◇興味に応じた柔軟な取組
- ◇やりたくなる「授業の振り返り」を設定
- ◇自主学習週間の設定
- ◇自主学習の手引き(時間・時間の作り方・内容)の策定
- ◇自主学習ノートグランプリ、ランキング、コンテスト等の実施
- ◇宿題の有無に関わらず「自主的に学習できること」を目指す(自主勉強・読書)
- ◇全学年で取り組む「プラスワン」学習

教育委員会の取組

- ◇教育研究員・学力向上部会 担当者(研究員)と指導主事とで実践・検証
- ◇局の指導主事を招聘しての研修
- ◇アンケート形式で実態把握
- ◇TV ゲームの時間が多い(3・4h 以上が多い)という課題克服への取組
- ◇生活習慣を見直し、決まった時間に決まった場所で学習する習慣を確立
- ◇手引きの意味を確認、主体的に継続的に意味のあるものにしていくよう提言

家庭学習に課題がある児童生徒への支援について

- ◇学習支援員を活用し、学校で学習機会を保障
- ◇定期テストを見据えて、学び方を支援
- ◇地域人材の活用
- ◇個別支援、補習を重視



現状・課題、大切にしたい視点等について

- ◇授業をもとにした発展的な自主学習は、児童の心に響くような授業をしないと、やりたいという思いは生まれない
- ◇ただ課題を与えるのではなく、児童が自主的に取り組んでいけるよう、教師は相談者となって支援するような取組が必要ではないか
- ◇家庭学習の時間は長いが、主体性という点では課題がある
- ◇学び続ける力の育成を目指す

具体的な取組について

- ◇組織的・計画的に取組を進める
- ◇家庭学習ノート、ファイルの活用等、取組の記録を残す
- ◇既習事項を踏まえて課題を作成
- ◇「思考力・判断力・表現力」を問う課題を出題
- ◇習熟の程度に応じた課題や学習意欲を高める課題を出題
- ◇自分で計画を立て、意欲的に取り組めるよう仕掛ける(計画・振り返り・ビンゴ形式)
- ◇ルーズリーフ学習
- ◇こども園とも連携して一貫した取組を実施
- ◇学校で統一した視点での意欲付け(採点評価、コメント)
- ◇確認テスト(目標を明確化)
- ◇小中連携による家庭学習週間の設定
- ◇忘れた頃に再度課題を出し、定着への意識付け
- ◇非認知能力の育成を意識して出題
- ◇家庭学習計画表作成(目標・時間・達成状況)
- ◇基礎基本の定着に課題がある実態から、その定着を促す内容を工夫
- ◇教科ごとに年度当初に家庭学習の課し方について検討・実施
- ◇学力の二極化という課題から低位層へのアプローチを重視した取組を進める
- ◇量の保障と質の保障で学力の定着を目指す

ICTの活用について

- ◇ロイロノートを使って鍵盤ハーモニカやリコーダーの演奏の様子を録音
- ◇ドリル学習(ドリルパーク等)
- ◇オンラインでの調べ学習、振り返りを見据えた計画
- ◇レベル別課題、動画配信(タブレットで視聴可能)
- ◇ルーターの貸出(接続支援)、家庭学習でのタブレットの活用を重視
- ◇多様な学習が可能となり、家庭学習の幅が広がると捉えたい
- ◇教師の負担軽減・生徒の興味関心の向上につなげたい
- ◇タブレットの持ち帰りをスタートさせるが、ネットにも無制限に繋がるため、問題も発生する、ルールをどうつくっていくか

啓発・家庭との連携について

- ◇啓発冊子(家庭学習の手引き等)の配付、家庭訪問、懇談での説明(時間・約束事・内容の紹介)
- ◇保護者からのコメントを依頼
- ◇家庭と連携した課題(家庭科(調理)→作り方を授業で、実践を家庭で)
- ◇新入生オリエンテーションや年度始めに「家庭学習の手引き」について説明
- ◇学校だより・学年だよりでの紹介
- ◇目標・計画を立てる段階から保護者に関わってもらおう(事前に伝え、支援してもらおう)
- ◇教師のコメント、教師からのおすすめ
- ◇廊下掲示、朝学習、通信での紹介
- ◇ランキング(掲示)

